



第1回 新日本歩く道紀行シンポジウム

【2017年3月17日（金）】

テーマ / 道から始まる日本の創生（観光・商工・健康）

基調講演-1:「みち」のチカラを生かし日本再生へ

元国土交通事務次官
特定非営利活動法人
新日本歩く道紀行推進機構
副代表理事 谷口博昭氏

1. 地方創生、まち・ひと・しごと創生

- H26年12月国の総合戦略策定、逐次地方の総合戦略策定
- まち・ひと・しごとの好循環、「まち」は時間を要する
- “地方・民が主役、国・官は脇役”を基本に自然環境、歴史文化等の地域特性を生かすことが肝要
- **地産地消と他消・多消／他商、多商**
- 定住人口とインバウンド等交流人口
- グローバルとローカルの循環、東京と地方の相互互恵

みちの文化

- 道、路、美智、未知、みち=ち／ちまた=まち
- みち／結ぶ、交流することで互いによくなる
- Better Road, Better Life
- 人と人が結ばれる事で幸せに
- ひとまちも一人では生きていけない／共生(ともいき)
- 「道」、「路」は踏むの意、足で踏みしめたところが道路、新日本歩く道紀行100選の意義大

道ルネッサンス

道の駅から道ルネッサンスへ

- 3つの機能／休憩、情報発信、地域の連携+防災機能
- 統一性と地域の自由度／地方との協働
- 地方創生や健康長寿の拠点へ
- **道ルネッサンス**
車から人へ、沿道とのコラボ点から線へ、沿道の幅広化・奥行化・道路境界のシームレス化

風景街道から新日本歩く道紀行

- シーニックバイウェイ
1965年屋外広告物規制法、1989年シーニックバイウェイ法+エンジェル基金
- 道ルネッサンスから日本風景街道へ
- **更に、新日本歩く道紀行100選シリーズ**

新日本歩く道紀行100選シリーズ

<http://michi100sen.jp/>

選考委員(推進機構理事等)

- 最高顧問 石原信雄(元内閣副長官)
- 委員長 下光輝一(公財・健康・体力づくり事業団理事長)
- 副委員長 谷口博昭
- 委員 須田寛(JR東海相談役)、石田東生(筑波大学教授)他
- アドバイザー 関係6省庁

493コースを一次決定

- 10テーマ
歴史、文化、こころと祭り、絶景、森、水辺、ふるさと、食、港町今昔、温泉
- 825コース、47都道府県468自治体から応募
- 各テーマ毎に、夫々100,97,32,46,56,74,49,9,16,14、計493コース選定+33コース追加
- **選定から活用、運営、推進機構設立**
- 歩きんぐくらぶとWEBサイト
- 成功モデル事例創出へ

「公」をパートナーシップで

「公」をパートナーシップで

- 「公」とは、オープンプレイス「公」と私、全体と個INDIVIDUE
- ソサエティ; 社会でなく仲間
- 感動の体験を共有
- **小さくても周囲を巻き込みながらの渦巻き状・らせん状の運動展開／PからDへ**

カネ、チエ、アセ

- カネ
官のカネ制約下での長期的見通し、民間資金・基金活用、PFIからPPP
- チエ
民間活力活用、規制と緩和
- アセ
普請・ボランティアの精神
- 社会的資本(自然、インフラ、制度)、社会関係資本(Social Capital)